※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

北海道教育大学釧路校
出前･議会報告会開催概要

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

日時：平成２５年２月２０日（水）
　　　午前１０時３０分～１２時００分

会場：北海道教育大学釧路校　４０３教室

北海道教育大学釧路校　出前・議会報告会開催概要

■ プログラム

○ 開会

○ あいさつ

・釧路市議会　黒木　満　議長

○ 報告

⑴ 議会・議員に関すること

⑵ 人口増への対策などに関すること

⑶ 観光客を増やすための対策などに関すること

⑷ 生活保護に関すること

⑸ 石炭産業の振興対策に関すること

○ 意見交換

○ 閉会あいさつ

・釧路市議会　月田　光明　副議長

○ 閉会

開催日時	平成 25 年 2 月 20 日（水）10：30～12：00
開催場所	北海道教育大学釧路校 403 教室
参加人数	147 人
出席議員	（報告･意見交換） 黒木　満議長 月田光明副議長 梅津則行議員（司会・議会広報特別委員長） 髙橋一彦議員（議会運営委員長） 土岐政人議員（総務文教常任委員長） 鶴間秀典議員（経済建設常任委員長） 宮田　団議員（民生福祉常任委員長） 畑中優周議員（石炭対策特別委員長） （会場関係） 森　　豊議員（議会広報特別副委員長）

	山口光信議員（議会広報特別委員） 松橋尚文議員（議会広報特別委員） 金安潤子議員（議会広報特別委員） 松永征明議員（議会広報特別委員） 松尾和仁議員（議会広報特別委員）
意見交換の内容	教育大生：生活保護に関して、雇用と福祉のコラボレーションについての話があったが、具体的にどのようなことを行おうとしているのか聞きたい。 宮田委員長：生活保護に限らず、釧路の雇用情勢はたいへん厳しいものとなっている。働きたくても働けないという状況の中、自立のための雇用創出のメニューとして、具体的には漁網をつくる作業を検討している。漁網の需要はあるものの、それをつくる担い手がなかなかいないという状況があるため、これを今後の取り組みとして進めていこうとしているところである。 教育大生：駅周辺整備に関して、鉄道を高架にすることにどのような意味があるのか疑問である。また、実家のある兵庫県まで帰省するのに、飛行機を使っても 12～13 時間かかってしまい、もっと時間が短縮され、行きやすくならないかと考えている。（釧路から「行きやすい」ということは、他所から「来やすい」ということにもなる。）現在、釧路空港から本州に行く便が少ないという状況で、便を増やすことも一つの方法だが、新幹線など鉄道の高速化については検討されていないのか。 土岐委員長：まず鉄道高架について、釧路は鉄道によって南北が分断されており、鉄道を高架にすることで北大通から駅裏が道路でつながり、交通体系が非常に良くなる。「できることなら鉄道を高架に」という考えだが、莫大なお金がかかるため実現は難しいだろうということで、もう一つの案として、鉄道はそのままで駅舎を高くする橋上駅という考えがあ

	る。これについても相当なお金がかかり、釧路市の持ち出しが増えるため、なかなかもう一歩踏み込めないのが実情である。 鶴間委員長：釧路空港からは、夏の期間だけ伊丹空港行きが臨時便というかたちで運行されているが、採算が合わなければこの先どうなるか不透明であり、また運行期間が限られていることからも、利用しにくいということもあるのかと思う。最近、格安航空会社が現れ、今後どんどん増えてくれば、関西空港などは発着枠に余裕があるため、釧路便が就航する可能性について期待できるのではないかと思っている。 　また鉄道に関しては、新幹線が札幌まで延伸の計画があり、そこからさらに釧路までということになると、なかなか実現は難しいが、私としては、つくればよいというものでもないと考える。それらを維持する費用も税金であり、つくったものがどの程度利用されるか、そういうことも考えていく必要もあるかと思う。 教育大生：釧路は、他の市町村と比べてごみ袋の値段が高いと思うが、なぜか。 宮田委員長：ごみ袋の値段については、ごみを減らしていこうという排出抑制の意味も含め価格を設定した。 副　議　長：釧路で最終処分場を導入する際、市議会では廃棄物対策特別委員会を設置し、集中的に議論を行った。その中で、ごみ袋をいくらに設定するのかということに関し、ごみ袋の収入で焼却施設の運営維持費をどの程度見込むかということが一点と、ごみ収集有料化により、いかにごみを減量化し、資源化できるもののリサイクル率を上げていくかということの二点が議論のポイントとなった。紙類は、可燃ごみではなく資源ごみとして出せば無料で収集されるし、また市では生ごみ堆肥化の講習なども積極的に行っており、これらを極力ごみとして出さずに可燃ごみの量を減らしていけば、小さな

	袋での排出で済むことを考えると、必ずしもごみ袋の金額が高いとは言い切れないのではないかと考えている。 教育大生：生活保護に関して、就業支援プログラムのような雇用に直接結びつくような対策がとられているが、実際にどのくらいの実績があるのか。 宮田委員長：自立支援プログラムの第一段階として、働いたことのない人や、働くことから長い間離れていた人のために、まずは人との関わりをもつということで、ボランティア活動を通じて“働く”ということを感じてもらう。また資格を取って自立するまでの間、生活を支援することも行っている。昨年度は 534 世帯が保護を廃止しており、対前年度比 35 件の廃止世帯増である。このうち、就労が理由で廃止となったのが 136 件で、廃止の基準に満たないが本人の申し出で取り消した人数も合わせると、200 件近くになる。 梅津委員長：今回は事前に皆さんからの質問を受け付けており、その中で「基礎学力保障条例についてもっとよく知りたい」との質問があり、そのことについて土岐総務文教常任委員長からお話しいただきたい。 土岐委員長：『基礎学力保障条例』は、釧路の子どもの学力が、全国平均を下回る北海道の中でもさらに低位であるということに危機感を持った議員たちが、その対応をしようと会を立ち上げて調査研究する中から、条例制定への動きが出てきたものである。小学校の高学年になっても、低学年時に修得していなければならないはずの基礎的な学力が修得できていないため、そこから授業についていけない子どもがいるということも事実である。基礎的な学力について、学校、家庭、地域、行政や議員もしっかりと取り組みましょうというのが、この条例の考え方である。一部には、時期尚早ではないかとか、現場への影響が大きいのではといった反

	対意見もあったが、結果として賛成多数で可決された。 教育大生：釧路に来て初めて感じたのが、駅の寂れ具合が尋常ではないということである。普通は駅の周辺というのはにぎわっているものだが、釧路はまったく状況が違っている。駅周辺がもっと栄えるような今後の方策があれば聞きたい。 土岐委員長：先ほど、鉄道の高架化等の整備については凍結されているとお話ししたが、防災上の観点から駅周辺に防災機能を持たせることが必要ではないかということで、駅舎を改修して高くするか、同等の建物にするのかということについてこれから検討を始めるなど、新年度からの取り組みが予定されている。 また昔は自家用車を持つ人が少なく、移動に鉄道やバスなどを使っていたため、必ず駅に一旦、人が集まるという流れがあったが、車社会になり、必ずしも駅に人が集まらなくなったというのが大きな問題である。これを解消するには、駅周辺に大きなショッピングゾーンができるとか、また市でも住宅をつくるなどの取り組みは行っているが、「昔のように」というのはなかなか難しいと考える。 鶴間委員長：「駅から末広などの歓楽街が遠い」という街のつくりを、今、急に変えることは難しいと考える。行政としては、子育て世帯が住めるような公営住宅、まちなかに拠点をつくるということで上階に高齢者住宅のあるショッピングモールをつくるなどの、まちづくり会社による計画を支援したり、ＭＯＯのフィットネスセンター跡に避難所として使える施設を整備するなどといったことにも取り組んでいる。 また、小さなところでは、空き店舗に入った事業者への補助等、さまざまな努力はしているが、中心市街地を盛り上げていくというところまでは至っていないというのが現状である。

	教育大生：釧路の炭鉱は、日本で最後の炭鉱との説明を聞いたが、それを“売り”にして観光などに生かしていけないのか。「夕張のようなアミューズメント施設を」とは言わないが、大人から子どもまで楽しめるような施設があれば、春採地域の活性化にもなると思う。 畑中委員長：城山小学校の空き教室に、炭鉱資料室が設置されている。また春採（旧ヒルトップ跡）にも炭砿資料館がある。炭鉱を観光施設として活用できないかとの質問だったが、今現在、稼働している状況であり、体験入坑はできるが、観光施設とするまでの活用は難しいと考える。我々はそうならないために努力しているが、仮に将来、閉山となってしまったときに、そういう視点でのＰＲも考えていかなければならないと思う。 教育大生：路線バスの料金が高く、便もよくない。ジャスコやポスフールなどへ行くためのバス賃が、往復で 1,000 円以上もかかる状況であり、その点についてはどう考えるか。 鶴間委員長：直接的にはバス会社の路線設定であり、そこに我々が意見するということもできない。都会では一律料金のコミュニティバスが運行されている実態もあり、そういうものを提案しながら、バス利用の形を模索していきたい。 教育大生：国際バルク戦略港湾の整備に関して、苫小牧の方にも大きな港があり、そちらの方が札幌にも近く、貨物船の拠点として適しているように感じるが、その点をどう克服し、釧路に呼び込んでいくかということについての考えはあるか。 鶴間委員長：物流に関しては、苫小牧は釧路の 10 倍以上の取り扱いがあり、札幌圏では苫小牧が主流となっているが、今“連携”ということも進められており、釧路～苫小牧～釜山～上海～台湾などを結ぶような航路に支援しており、今後増便していく努力もされている。また現在、大きな船が物流の主流であ

	り、その船が入るための大きな港が必要となっているが、将来的には釧路が窓口となって、一旦荷を降ろし、小さな船に積み替えて発進していく機能を持ち合わせることができるし、開通する高速道路を通じて物流を全道に回していくなど、釧路としての存在感を示していけると考える。 梅津委員長：その他、質問がなければこちらからお話したい。事前質問の中で、議会報告会は小学生対象にも実施しているかとあったが、髙橋議会運営委員長からお話しいただきたい。 髙橋委員長：議会報告会は、昨年13会場で15回行っており、その他に釧路短期大学、釧路公立大学を対象にも開催している。小学生向けにもということだが、現時点では難しいと考える。今後の検討課題ととらえている。 梅津委員長：その他にないか。 髙橋委員長：議員から一言。先ほど基礎学力保障条例の話があったが、釧路の場合は学力調査の結果、北海道の中でも低い状況にあり、また家庭が少し乱れており、生活保護世帯が多いことなどが悪循環となっている。この釧路の状況を何とかしたいということで、私たち議員は議論を続けている。 皆さんがたは、これからそういう現場に立つ先生になられる方であり、聖職という言葉を考えながら、がんばっていただきたい。